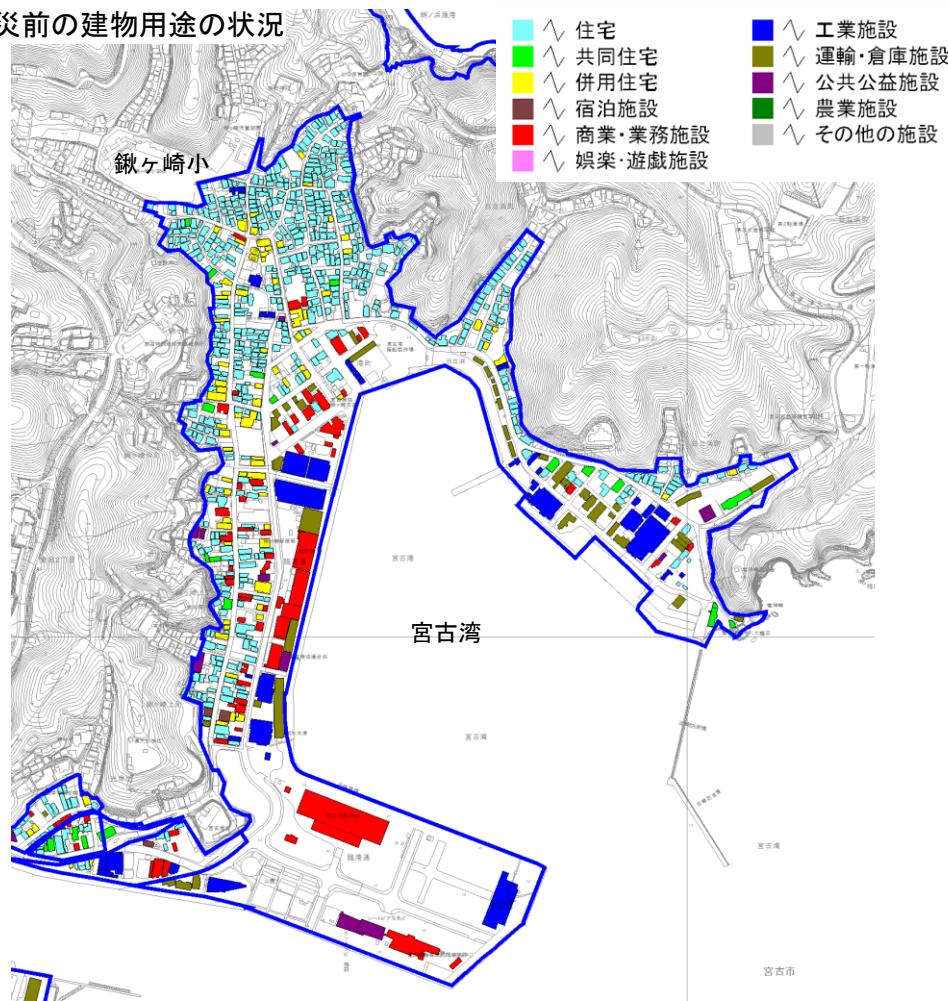


地区の現況

●基盤整備の概要

- 古くから漁港として栄え、漁業関連施設や商店などが建ち並んでいました。
- 防潮堤、都市計画道路、市道が未整備の状況でした。
- 蛸の浜などの住宅地においては、計画的な道路整備が行われないまま木造住宅が密集した状態でした。

●震災前の建物用途の状況



●宮古市東日本大震災復興計画基本計画

第5 地域別復興まちづくりの方向性

宮古地域

- 防潮堤の新たな整備と必要に応じ嵩上げを促進するとともに、背後地の高台を活用するなど、安全で安心して暮らすことができる住宅地の整備を進めます。
- 魚市場、漁港、港湾や観光施設などの産業関連基盤については、施設の復旧に向け、計画的、段階的な事業展開により、着実な復興に取り組みます。
- 防潮堤の外部や防潮堤を設置しない地域における避難体制の強化・確保に向け、避難タワーや避難ビルの設置を検討します。また、避難路、避難場所については、高齢者や障がい者に配慮し、誰もが容易に避難ができるよう見直しを図るとともに、避難道路網の複線化を進めます。

●宮古市都市計画マスターplan(H15.3)地域別構想「鍵ヶ崎地区」

キャッチフレーズ：みなとまち

◆地域の特色

① 鍵ヶ崎地区は、サンマ船の出漁で賑わった“みなとまち”的イメージが根強く、昔から水産のまち「みやこ」を象徴していました。

浄土ヶ浜や蛸の浜等の第一級の景勝地が隣接しており、恵まれた観光資源を生かしながら“みなと”の魅力あふれたまちづくりが求められています。

また、傾斜地や狭小な土地に住宅が密集しているため、防災面を考慮したまちづくりが課題となっています。

② 佐原や中里地区は主に住宅団地の開発に伴って形成された住宅地となっています。

◆地域の課題

① 水産業の不振にともない、港町としての魅力と賑わいが失われています。

② 密集住宅地における津波や火災等、防災対策が立ち遅れています。

③ 浄土ヶ浜周辺の観光施設の老朽化がみられます。

④ 近年、観光客が減少しています。

◆地域の将来像

① 地域は、水産業の基地として賑わい、貴重な観光資源を生かした観光レクリエーションゾーンとして“みなとまち”的魅力を取り戻します。

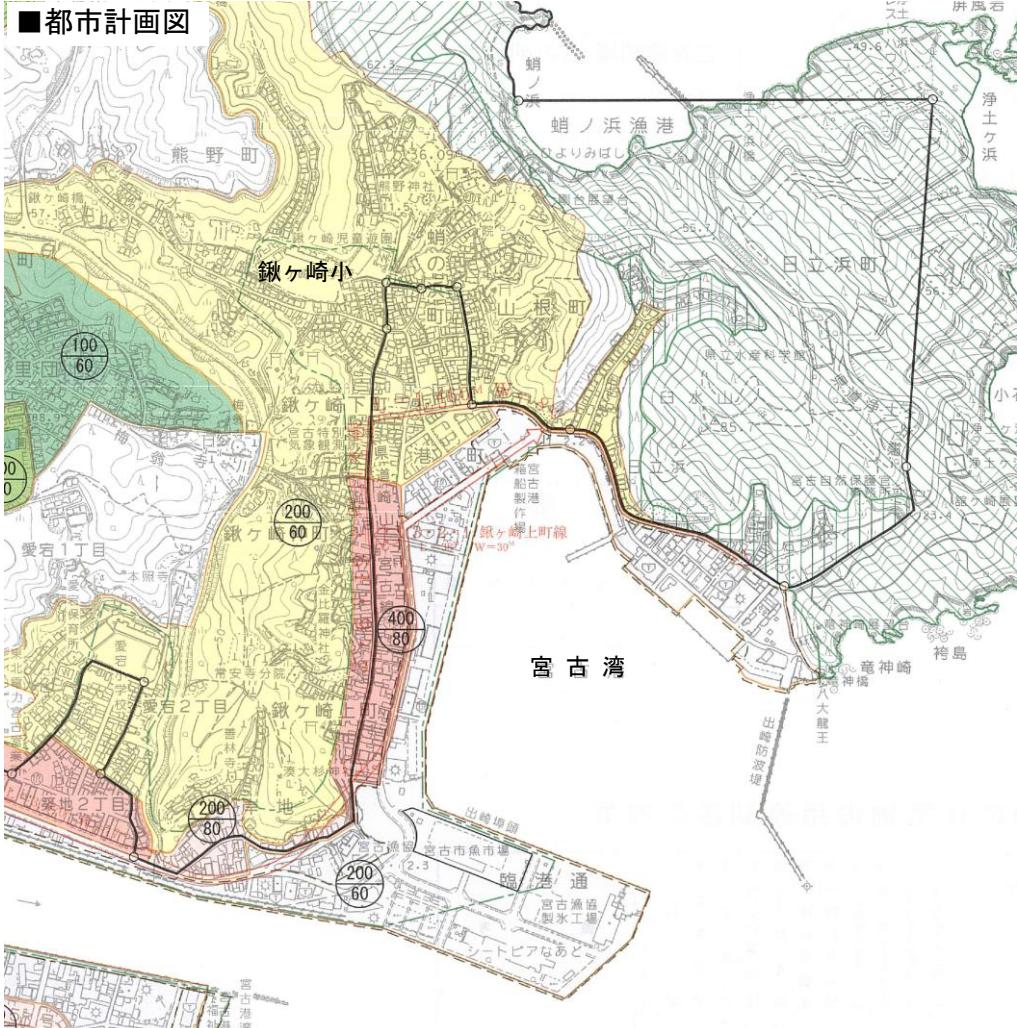
② 佐原や中里地区は、住環境が保全され住みよい住宅地を形成します。

◆まちづくりの方向 【土地利用】

① 水産基地も兼ねた観光レクリエーションゾーンとしての機能向上が図られる利用を進めます。

② 佐原から中里地区は、良好な居住環境を維持・保全します。

③ 浄土ヶ浜周辺は、国立公園として貴重な自然景観を保全します。



凡　例		容積率 (%)	建ぺい率 (%)	外構面積 (m²)	緑地面積 (m²)
第一種低層住居専用地域		80	40	1.0	10.0
第二種低層住居専用地域	100	60	—	10.0	
第一種中高層住居専用地域	80	40	—	10.0	
第二種中高層住居専用地域	200	60	—	—	
第一種住居地域	200	60	—	—	
第二種住居地域	200	60	—	—	
近隣商業地域	200	80	—	—	
商業地域	400	80	—	—	
準工業地域	200	60	—	—	
工業専用地域	200	60	—	—	

準　防　火　地　域	公　園
綠　地	地
都　市　計　画　街　路	
区　画　整　理　区　域	
臨　港　地　区	
宅　地　造　成　工　事　規　制　区　域	
第1種	(H)建ぺい率(%)容積率(%)
風景評価区分	8 2 / 10 3 1.5
第3種	12 3 / 10 2 1
第4種	15 4 / 10 2 1

新市計画区域内で用語等の定義のない区域
容積率 200% 建ぺい率 70%

上段 容積率(建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合)(%)
下段 建ぺい率(建築物の建築面積の敷地面積に対する割合)(%)

■国土利用計画



■埋蔵文化財等の状況 (いわてデジタルマップより)



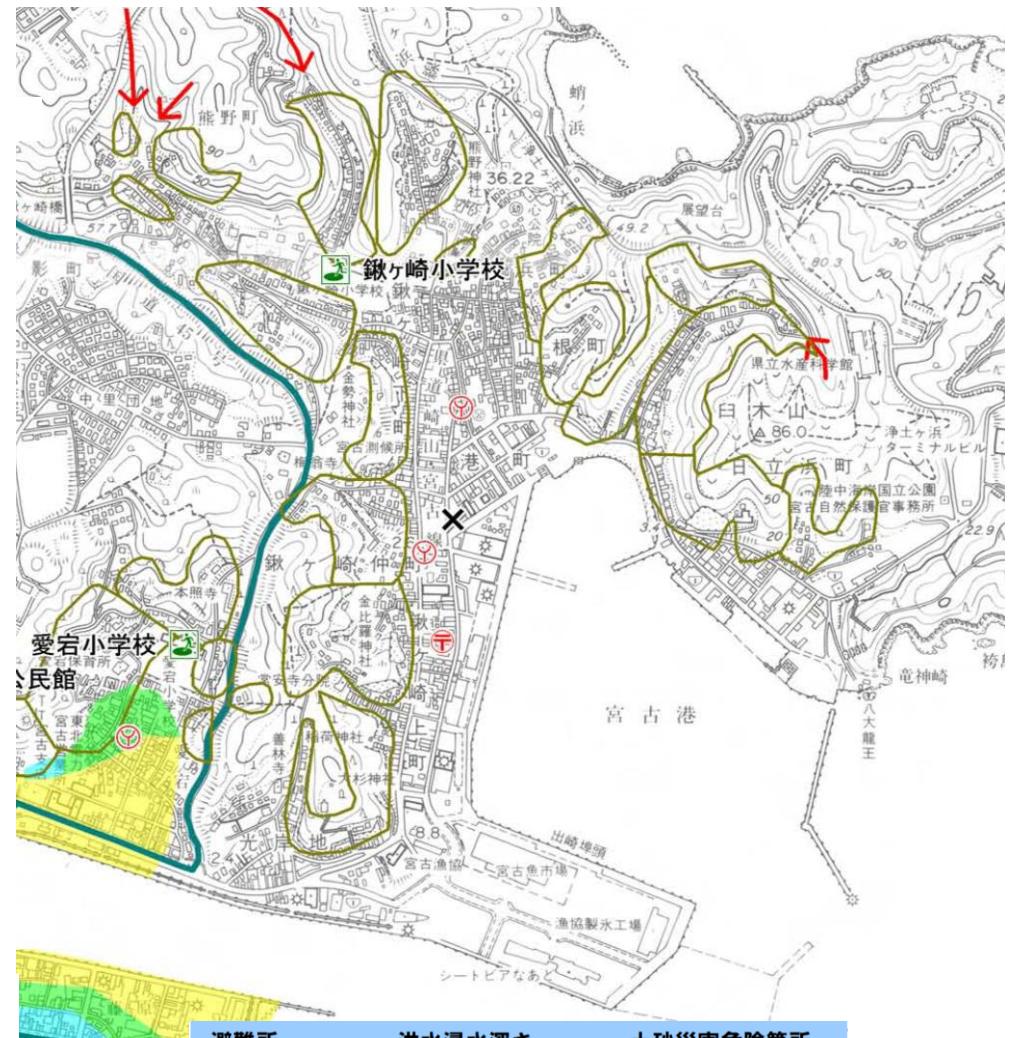
■避難場所、避難ルートの状況（宮古市ハザードマップより）



避難場所・避難所 津波浸水深さ

避難場所 (高台)	0.5m未満	2.0~4.0m
避難所	0.5~1.0m	4.0~6.0m
避難ルート	1.0~2.0m	6.0m以上

■危険区域の状況（宮古市ハザードマップより）



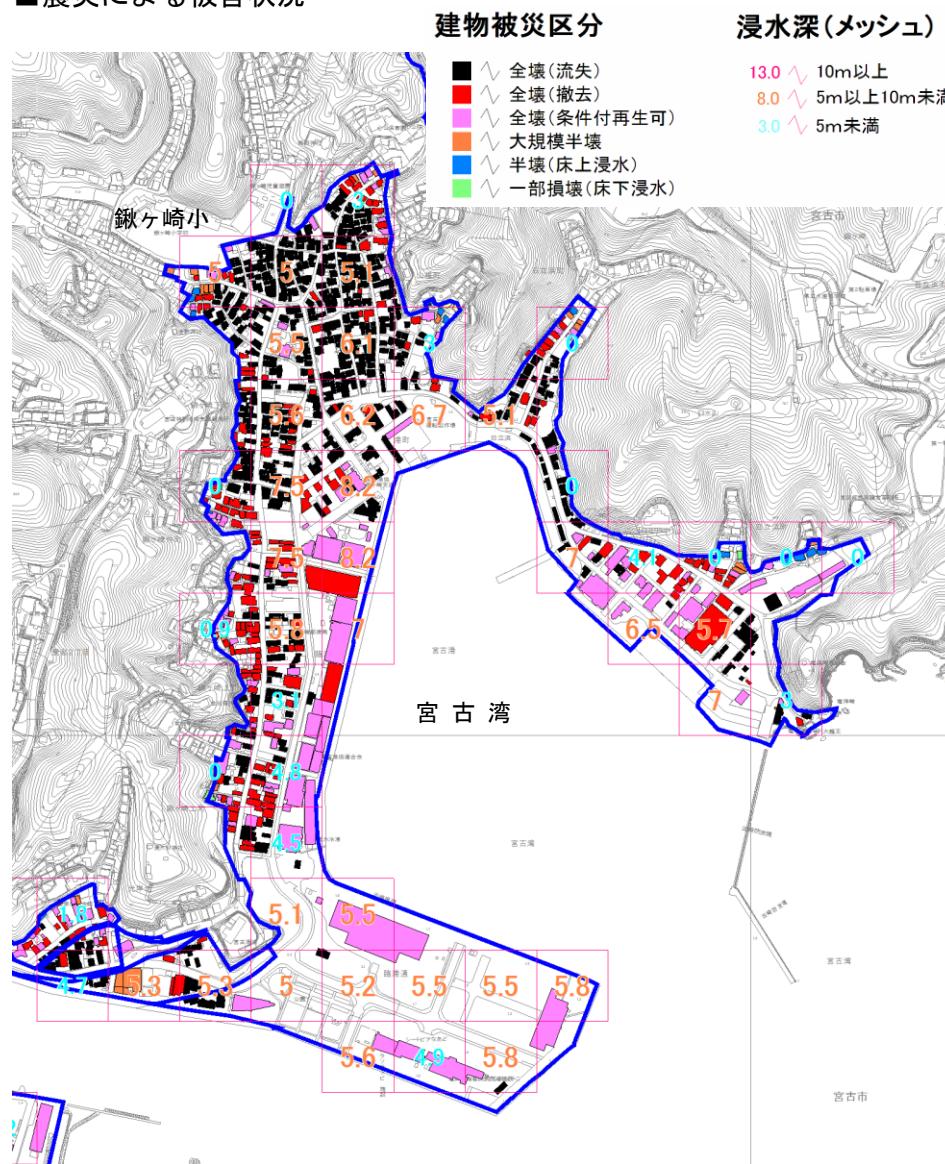
避難所 洪水浸水深さ

避難所	1.0~2.0m
0.5m未満	2.0~5.0m
0.5~1.0m	5.0m以上

土砂災害危険箇所

急傾斜危険箇所 (がけくずれ)
土石流危険渓流

■震災による被害状況



■震災前の建物の接道状況

